

## 高齢者に配慮した駅の案内放送の提供手法

辻村壮平 伊積康彦

急速な高齢化が進む日本では、加齢に伴い聴力の低下した高齢者の鉄道を利用する機会は増加します。鉄道駅の音環境に関してはこれまでも多くの問題点が指摘されており、特に、高齢者が駅を利用する際に、音声による案内放送や警報・誘導などのサイン音が聴き取れない等の問題が顕在化しています。

このような背景のもと、筆者らは今後の高齢社会に対応した駅の案内放送の聴き取りにくさ改善手法を表にまとめました。空間が吸音処理されている場合、案内放送の提示レベルを78dB以下に抑えらるささは感じられず、SN比を+8dB以上確保すれば聴き取りにくさも生じません。空間が吸音処理されていない場合は、案内放送の

提示レベルを63dB以下に抑えらるささは感じられず、+13dB以上のSN比を確保すれば聴き取りにくさも生じないことを見出しました。また、案内放送の発話速度は6.5～7.5mora/sが望ましいことがわかりました。

表 駅の案内放送の聴き取りにくさ改善手法

聴取者の聴力低下	有り・無しいずれにも有効	
空間の吸音処理	有り	無し
SN比	+8dB以上	+13dB以上
案内放送の提示レベル	78dB以下	63dB以下
暗騒音の目標値	70dB以下	50dB以下
発話速度	6.5～7.5mora/s	